



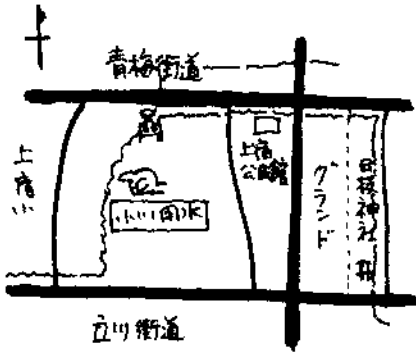
せせらぎ Message 9 「こだいら 水と緑の会」

1、活動報告

①「水と緑と公園課」との懇談会 2005/2/16

- 延命寺公園の整備について・・・平成 17 年度から着工するが、当初予定の「あづまや」は 17 年度は作らない。用水の整備については、出来るだけ擬木を使用しないことを要望。
- 氷川通りの開渠化について・・・平成 17・18 年度に氷川通りの一方通行化に伴い、用水路暗渠部分を開渠化する。担当は道路課。
道路課：現在までに周辺住民への説明会を 1 回実施。17 年度は説明会のみで終わりそう。出来るだけ自然な形の整備を、と考えている。

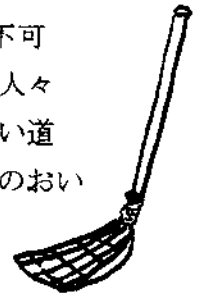
- 上宿公民館前の小川用水の整備について・・・この地区は良い整備ポイントであるという認識で一致。また、上宿公民館東道路を挟んでのグラウンドは将来小平市のものとなり、敷地の三分の一は緑地公園にしたい考えあり。立川街道～水門～上宿公民館前～グラウンド北側まで通した整備デザインの提出を、国土建設学院の協力を得て実施する方向で検討中。また、水門の所には当会寄贈の案内板を設置する許可を得た。



- 揚水車設置に向けて・・・新堀用水の上水公園の敷地内に揚水車を設置する計画を掲げているが、その実現につき実行委員会を作ることは可能との判断を得る。
- 用具の支給について・・・用水路の清掃に必要な用具は、申請してもらえれば現物を無償貸与する。

②昭島「水の講」見学 2005/2/13

昭島の用水は 30 軒程の集落の中を流れる伏流水で、現在は飲料不可ですがワサビ田もある綺麗な水です。まず水神様に祈願してから、人々が共同で用水の掃除をします。昔からの、小平でも目にした懐かしい道具がありました。寒風の中、地元の方がご馳走してくださった甘酒のおいしかったこと！水は心を繋ぐものだと再認識しました。



③用水路ボランティア 毎月第一金曜日 10:00~12:00pm

昨年 9 月より始めたこの活動も定着してきました。「公園ボランティア」の腕章をつけて用水路のごみ拾いしていると「ご苦労様」と声が掛かることも。今後市内用水路を西へ東へと掃除に回ります。

用水の水は多摩川の自然水です。この活動のみの参加も受け付けています。

④水の全国一斉検査への参加

農工大の小倉紀雄教授のご指導で、6月に全国一斉に身近な水の水質検査が実施されます。今年から当会も参加。市内4カ所の用水を検査。

⑤新しいHPが出来た！！

HPが3月から細田君の担当となりました。これまでのものとは一味違い、写真も入って見やすいものになっています。是非ご覧下さい。HPアドレスは後述。

⑥助成金のこと

担当が馬場に替わりました。応募してもなかなか「なしの確」なのですが、頑張りたいと思います。

⑦その他

- あじさい公園・平成17年度は公園内のあじさいの配置を整えます。
- 環境マップ・・・エコダイラネットワークの「環境マップ部会」が実施。平成16年度は3校で環境学習に参加の形で実施。教材としても市民との協働としても高い評価を受けた。17年度は8校を予定。

2、新会員の紹介

「せせらぎに寄せて」

萩原 捷

—こだいらの上水・用水の保全・育成と街づくり支援を夢見て—

私たちのまち小平は、高度成長期時代の終焉を迎えた今日でも、地域には保全緑地や生産緑地のみならず歴史的街道筋の屋敷林等がまだまだ多く残されている。春一番の黄塵風には悩まされましたが、サトイモ・ウド畑の朝露に光る水滴や、朝陽・夕陽に照る富士山の眺めと荘厳な景観。更には満天の星空と四季折々の野鳥のさえずり。

しかしながら、バブル崩壊後の今日、地域住民の世代交代を起因と想定されるスプロールの開発は続いており、畑や緑地の減少や屋敷林の伐採は目を見張るばかりで、私共が移り住み始めた頃の景観は失われつつある。野鳥もめっきり、カラスやヒヨドリそしてモズが目立つように感じています。

私は多摩川沿いの町で育ちましたが、その頃の多摩川の河原には麦・芋畑や温室村と称する花畑が拡がり、上野毛から田園調布にかけての崖線（ハケ）下の用水には清流が流れていた。春にはヒバリが空高く舞い、さえずり、夏には河原に葦葎張りの小屋が並び大勢の水浴客の歓声が響き、用水では子供等が魚を追って嬌声を上げていた。が、昭和30年頃のある年「沈黙の多摩川」となった。



今、小平に残されている用水・保全緑地・生産緑地・屋敷林など貴重な地域資源を保

全・育成し「沈黙の小平」とすることなく、次世代に繋げていくことこそが現在に住む者の務めではなかろうか。

奇しくも、高度経済成長政策の反対極に掲げられる「環境・福祉」に価値を求める‘成熟社会’即ち「定常型社会」（広井 良典）への転換と、‘市場経済主義’に基づく行政による公共政策から市民自らの自治・自己責任の時代へと転換が求められている。

都市の緑地は人為的に植栽され維持管理されているが、自然の生態系に比して多くの‘ゆがみ’を持つと指摘される。それでも人為的緑地も生態系をより健全で自然なものに変えていこうとする力を有しているともいう。私たちはこれを理解し、緑化・修景・維持管理に取り組む必要があるのではないか。また、緑地は広い面的なもの他に線状・点状のものがある。河川・用水や道路沿いの緑地は生態系の回廊（Corridor）としての役割を持ち、それ自身が帯状の生態系を持つだけでなく、周辺にある点状の生態系を繋ぐ連絡路として機能する。都市・農村域で周囲が開発され宅地化が進んでいる場合でも「島の生物地理学」の論理が適用できるという。

この生態系の‘ネットワーク作り’を市民自らが行動して保全・育成していくことが、これからの小平の緑地保全と街づくりに重要な視点と考えています。私は定年後のライフワークとして「水と緑」が織り成す環境をテーマとする街づくり支援に主体的に関わっていただけることを夢見て「こだいら 水と緑の会」に参加しており、より多くの方々と行動を共に出来ればと願っています。

「水と緑に携われる喜び」

白井 進

昨年7月に還暦を迎えサラリーマン生活を離れましたものです。

60年間の生き方にはガムシャラな時を過ごすことも多々ありましたが、ある時に、ふとしたことから長年嗜んでおりました喫煙習慣から解放された日が来ました。その後、微々たる力だけでも環境悪化防止に、との想いが沸々と湧いてきました。

「この偉大なる地球環境を今以上に破壊しては駄目だ！」

この想いを行動で示せる勇気を出すことが出来ずにおりました。

そんな時に「森林作り体験ボランティア」コースの誘いを受け参加してみました。観光バス車内で、森林の現状と森林を育成し整備する重要さを学習しながら移動しました。



森林と水の循環システム、自然環境の水資源の重要さを認識しながら、現地では高齢の森林組合の皆様、森林インストラクターの方々の熱き意気込みに打たれました。民有林・国有林の違い、森林の荒廃・・・下刈り・枝打ち・間伐材の放置・・・森林ボランティア等を重ねているうちに、この大自然の営みの一員である自分が、出来ることから始めてみよう、という想いが固まってきました。

大都会のど真ん中に生を受け、当たり前のようにアスファルト環境で育ってきた自分が、生かされている不思議。今、「お前は水と緑に興味を持った幸せなヤツだ」と自己満足しております。

こんな単純な想いを身近で実現できる「こだいら 水と緑の会」に入会させていただき、益々のめり込んでいきそうです。会員各位のご指導、教えをいただき、身体の老いを吹き飛ばして学習・研鑽に励み、微々たる力ですがお役に立てるならば同道させていただきたいと念じております。

3、今後の活動予定

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 4月・・・小平市長との懇談 | ○毎月第一金曜日午前 用水ボランティア |
| 5月・・・グリーンフェスティバル | 第三土曜日 10時～ふれあいウォーク |
| 6月・・・案内板1設置 | 第四金曜日 18時～ 定例会 |
| 7月・・・青らんぎ祭り
奥多摩植樹参加 | 中央公民館学習室3 |

「こだいら 水と緑の会」で一緒に活動しませんか？一人は小さいけれど、皆で力を合わせて小平により良い環境をもたらしましょう！！

☆ 上宿公民館西側の水門の所に案内板を設置するにあたり、当会のロゴマークを公募しています。「水と緑」から連想される素敵なデザインを募集中です。このロゴマークは今後全ての当会の活動のシンボルマークとして使われます。いいデザインがありましたらご連絡ください。

編集後記：平成16年度は個人的には基地闘争に明け暮れました。自治体の街づくりに対して多々疑問を抱いています。現状では「小は大に従い、開発に規制なし」の感がぬぐえません。これではヨーロッパのような綺麗で歴史を感じさせる街並みの保全是夢のまた夢です。環境とか景観というもの意識して保全しなければ、開発の名の下に破壊されるだけです。小平に住む者誰もが、小平に良くなってほしい、と望んでいるはず。それは画一的な近代化ではなく、この小平の歴史と特性を生かしたものでできないのでしょうか。そして行政には予算に縛られることなく、長い目で見てよいものを作る、ことに前向きであることを渴望します。(諏)



連絡・問い合わせ先 Tel/Fax 042-345-6772 馬場

HPアドレス：<http://www009.so-net.ne.jp/water-green/>